

南アルプス市立豊小学校 令和3年度前期学校関係者評価書

令和3年10月1日
豊小学校学校関係者評価委員会
委員長 梅本澄雄



【第1回学校関係者評価委員会】

- 1 実施日 令和3年10月 1日
- 2 会場 豊小学校相談室
- 3 参加者

(1) 学校関係者評価委員

No.	氏名	役職	備考
1	保坂 博司	豊地区自治会会長	
2	齊藤 尚子	元本校校長	
3	梅本 澄雄	豊地区教育振興会会長・元本校校長	委員長
4	津久井 豊徳	元市教育委員・元校長（楡形中学校）	
5	吹野 武文	豊地区主任児童委員	副委員長
6	名取 秀敏	P T A会長（保護者代表）	

(2) 学校職員（3名）

No.	氏名	役職	備考
1	名取 広行	校長	本校在籍3年目
2	横山 啓二	教頭	本校在籍1年目／事務局
3	上野 中	教務主任	本校在籍2年目

4 学校から提案された内容

- (1) 教職員による前期自己評価アンケートの状況
- (2) 学校生活に関する前期児童アンケートの状況
- (3) 豊小学校前期自己評価書（アンケートの分析及び改善方策について）

5 協議内容・意見

○豊小学校前期自己評価書に対する考察

（教職員・児童アンケートの考察／改善方策に対する検証）

(1) 学校経営・組織について

- ・小中一貫教育に向けた取組として、学校評価の項目を小中学校5校で統一した。評価項目を統一することが、学校の特色やカラーを失うことにつながってはいけない。小中一貫教育の目的を再確認し、豊小学校らしさ、学校の独自性を大切にして学校経営にあたってほしい。
- ・秋季運動会を参観した際、開会式に臨む児童の様子から、児童が落ち着いていることや、行動にメリハリがあることを感じた。コロナ禍で運動不足ではないかと思っていたが、高学年の表現からは、体力面での力強さや、メンタル面での頑張りを感じ取った。「ニコニコタイム」や日常的な体育の時間において、体力づくりに取り組んでいる成果が表れているのだろう。

(2) 学習指導について

- ・教職員アンケートの結果から、学習指導にしっかりと取り組んでいる様子が伝わってくる。また、93%の児童が「学校の授業がわかる」と答えている。教職員が授業を大切にしていることがわかる。
- ・「豊小学校学びプラン」の取組はうまく進んでいるのか状況を知りたい。

【回答】

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業のプロセスを大事にし、授業改善に取り組んでいる。また、教科等横断的な視点に立った資質・能力として「対話力」に重点をおき、教育活動を進めている。

ペア学習やグループ学習など授業形態を工夫することで、対話的な活動を取り入れていく計画であったが、コロナ禍にあって、予定した取組に遅れがでている。業前の時間に「Simpleプログラム」を実施し、対話を行う上での技能的なスキルアップや子ども同士の間関係の構築を進めてきたが、回数や実施方法などが制限されてしまった。家庭学習については、個々の取組が充実し、校長室にもたくさんの使い終えたノートが届いている。

- ・感染症対策を講じながら、今後も、業前の時間を活用して「Simpleプログラム」を実施し、「対話力」を高める取組を継続して行ってほしい。

(3) 生徒指導・生活指導について

- ・評価の判断基準として、「肯定的評価が80%を超えていると、『満足できる状態』、否定的評価が20%を超えている場合を、『改善の余地がある状態』と判断した」とのことであるが、一律に80%を超えていたから「良し」とするのは、危険なのではないだろうか。生徒指導や生活指導の項目については、少数であっても大切にしていかなければいけないことがある。
- ・「いじめ対策委員会」に出席させてもらったが、いじめの件数が減ってきている。教職員が心ある指導をしてきているおかげだと思う。以前に比べ学校が明るくなってきている。
- ・「私は、困ったことがあったら相談できる友達がいる。」という質問について、1年生では86%、6年生では100%が「そう思う。」と答えている。1年生はまだこれからだろう。6年生が、100%ということは素晴らしい。学校はやはり、「友達がいる。」ということが、喜びにつながる。
- ・「学校が楽しい」は学年が上がると割合が減るが、「相談できる友達がいる。」の割合は増えている。また「相談できる先生がいる。」も増えている。教職員が良くがんばっているということが推測できる。6年生のアンケート結果は日々の頑張りである。苦しいところを乗り越えている証であり、安心して学校に来ることができているのだと思う。
- ・情報端末については、他県において、いじめに使われたとの記事があった。端末の使い方については、操作のスキルアップとあわせて、情報モラル教育を大事にしてほしい。
- ・子どもの居場所づくり、自己肯定感を高める、一人ひとりを大切にする、など教職員の努力が実っている。これからも大切にしていってほしい。子どもたちが健やかに育っていることに自信をもってこれからも教育活動に臨んでいってほしい。
- ・児童アンケートで「困ったことがあったら相談できる友達がいる。」という項目について、友達がいらないという回答がある。友達が上手にできないのは大人の世界がそうであり、人のつながりが薄れているからである。県内においても、「ヤングケアラー」が問題となっている。学校に行くまでの時間、家事に追われ、放課後もすぐに帰り、友達と遊んだり勉強したりと、やりたいことをやることができないという。登下校の様子を見ていると、大きな声で元気にあいさつする子や喜び勇んで学校に行く子たちが見られ、大丈夫だとは思いますが、豊小に心配されるよう

な子どもはいないか。学年が上がるにつれて自分の悩みや困りごとを言わなくなる傾向がある。ぜひ大人から子どもに近づいていき寄り添って話を聞いていただきたい。子どもが垣根を低くして話せるような関係づくりに取り組んでほしい。

【回答】

個別懇談、家庭訪問によって家庭の状況をとらえているが、現段階では「ヤングケアラー」にあたる児童はいない

- ・豊小では、心に響くような教育をしているので、あいさつが元気で生き生きとした表情で登校する、そういう姿をみることができうれしい。

(4) 保護者・地域との連携について

- ・チーム豊として、教職員だけでなく、PTA（家庭）や見守り隊（地域）が一緒になって学校教育が進められていることがわかる。

(5) 小中一貫教育について

- ・小中一貫教育を進めるにあたり、特別研究部が設けられている。教職員の多忙化改善を図るため、「働き方改革」に取り組んでいると思うが、特別研究部を設けたことが多忙化につながっていないか心配である。効率よく研究が進められるように留意してほしい。

(6) その他について

- ・新型コロナウイルス感染症に対し、学校としての対策がしっかりと取られている。「まん延防止等重点措置」の期間が終わっても秋季運動会を見据える中で、感染症対策を緩めずに取り組んだからこそ、運動会が無事にできたのだと思う。朝の健康観察や放課後の消毒作業など、教職員が子どもたちのために頑張ってくれていることに感謝したい。
- ・With コロナと言われていて、まだ油断ができない状況になるが修学旅行はどうなっているか。

【回答】

市教育委員会からの指導もあり、「非常事態宣言」や「まん防止等重点措置」が出されている都道府県を旅行先にはできない。当初は、東京神奈川方面を予定していたが、静岡方面や長野方面と旅行先として計画を進めている。また、訪問先については、6年生の学習に沿った内容が盛り込めるように配慮しているところである。

- ・大人になっても、小学校の修学旅行のことは思い出に残っている。ぜひ実現してほしい。
- ・258人の児童に教職員が28人、300人近い人たちが毎日集まっているのにクラスターが発生していない。感染症対策が充分になされている結果だと思う。保護者として安心できる。